医 療 と 人 権

科目責任者　竹　内　高　明
学年・学期　１学年・２学期

Ⅰ．前　　文

20世紀の科学技術発展に基づく工業化社会の中で，健康影響をもたらすさまざまな事象が発生し，その責任の所在が法廷で問われることとなった。その過程には，医学者がさまざまな立場から関わっていた。また，全体主義・軍国主義の社会において，倫理的に許されない人体実験や「社会に不適応」とみなされる病態への迫害が，医学の名の下に行われる事態も生じた。本講義では，それぞれの事例について検証しつつ，現代の社会と医療現場での人権のあり方を考えていく。

Ⅱ．担当教員

木　村　真　三（国際疫学研究室）・竹　内　高　明（基本医学）

Ⅲ．一般学習目標

日本と世界の現代史の中で，人間の産業活動がもたらした諸問題と医学との連関を知り，また制度化された優生思想や医療倫理の無視が社会に歪みを与えた例を学ぶことで，現在に続くそれらの問題の解決を探る。

Ⅳ．学修の到達目標

＊現代史の中で人権の問題に医療が深く関わった事例を理解し，その問題点を説明できる。
＊現在の社会において，医療の見地から人権を守ることについて，具体的な事例を挙げて説明できる。

Ⅴ．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（１：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
２：ディスカッション，ディベート　３：グループワーク　４：実習，フィールドワーク　５：プレゼンテーション
６：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
1	8	23	水	5	イントロダクション	木村真三 竹内高明	2
2		30	水	4	公害問題と人権	堀口兵剛 （北里大学医学部衛生学）	2
3	9	6	水	4	チョルノブィリ原発事故と福島第１原発事故	木村真三 竹内高明	2
4		13	水	4	ハンセン病の「予防」と治療	黒尾和久 （重監房資料館部長）	2
5		27	水	4	森永ヒ素ミルク事件	池座雅之 （TV番組制作者）	2
6	10	4	水	4	731部隊の今日的意義	池内了 （名古屋大学名誉教授）	2
7		11	水	5	まとめ	木村真三 竹内高明	2

Ⅵ．評価基準（成績評価の方法・基準）

事後課題の小レポート（30％），出席と授業への取り組み（10％），期末レポート（60％）をあわせて総合的に評価する。

Ⅶ. 教科書・参考図書・ＡＶ資料

教科書は特に指示せず，授業時に資料を配布する。また，必要に応じて参考図書を指示し，授業中に視聴覚資料を用いる。

Ⅷ. 質問への対応方法

講義中・講義後に随時受け付けるほか，語学・人文教育部門室（本部棟3階）でも対応可。

部門室での質問の場合は，あらかじめ連絡を取ること。

竹内連絡先：t-take@dokkyomed.ac.j

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置く DP　　○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

Ⅹ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事後課題については授業中，全体及び個別にフィードバックを行う。

Ⅺ. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間　＊（　）内は時間の目安

事前学習として，各回のテーマに関する予習を行う（20分）。事後学習として，Ａ４の書式１枚の小レポートを書き，学びを整理する（20分）。

Ⅻ. コアカリ記号・番号

B-1-6), B-4-1)